

U021-P04

会場:コンベンションホール

時間:5月24日 16:15-18:45

「災害リスク情報プラットフォーム」に関する研究～災害リスク情報を高度化・流通・利用するための情報環境の構築とその活用～ "Disaster Risk Information Platform"-Advancement/Distribution/Utilization of Information for Disaster Preparation-

臼田 裕一郎¹, 長坂 俊成^{1*}, 坪川 博彰¹, 田口 仁¹, 須永 洋平¹, 李 泰榮¹, 岡田 真也¹, 池田 三郎¹, 佐藤 隆雄¹, 三浦 伸也¹, 藤原 広行¹

Usuda Yuichiro¹, Toshinari Nagasaka^{1*}, Tsubokawa Hiroaki¹, Hitoshi Taguchi¹, Yohei Sunaga¹, Taiyoung Yi¹, Okada Shinya¹, Saburo Ikeda¹, Takao Sato¹, Shinya Miura¹, Hiroyuki Fujiwara¹

¹ 防災科学技術研究所

¹ NIED

自然災害による被害軽減のためには、一人ひとりが平時から災害を意識し、自らが事前の対策を実行することが重要である。防災科学技術研究所では、自然災害に関する様々な情報（災害リスク情報）を高度化・流通・利用できる情報環境として、「災害リスク情報プラットフォーム（Bosai-DRIP）」の研究開発を行っている。

その目的の一つが「災害リスク情報活用システム」の研究開発である。個人一人ひとりと地域コミュニティを対象として、各種災害リスク情報や事前対策に関する推奨行動等の情報を自ら取得し、自らリスクを評価し、自ら対策を検討・実行することを支援する手法と情報システムについて研究開発を進めている。

個人向けには、個人や家族が、ハザード・リスク情報に加えて、災害リスクに備えるための公的支援や民間のサービス・製品、防災行動等の情報を利用して、個人の社会的な状況やライフステージ、ライフイベントを考慮した将来の生活設計を立てたり、日常の生活行動に即して、いつでもどこでも、必要とされるハザード・リスク情報とリスク回避行動に必要な情報を伝達するシステムを開発している。

地域向けとしては、自主防災組織や避難所運営協議会等が、行政や専門家が作成したハザードマップやリスクマップ上に、地域の防災資源（避難所、防災資機材、技術を持った人材等）や住民等が認知している危険箇所、被災経験等の情報を追加し、地域固有の防災マップを作成するシステム、全国の災害事例や被災体験エピソード等の情報を参照し、地域で起こりうる被害を想定しながら、応急対策、復旧・復興等のシナリオを時系列で作成するシステムを開発している。また、これらの運用を通じて、地域社会のリスクガバナンス（災害リスクの協働統治のしくみ）が再編され、多様な主体による協働のネットワークに基づく有効な防災行動を創発し、不確実性を孕む災害リスクに対する地域防災力を高めることを目指している。

本研究プロジェクトのアウトカムは、個人一人ひとりや地域コミュニティが、専門家が培ってきた災害・防災に関する専門知識（専門知）、現在までに全国各地で被ってきた災害やその経験を活かした事前対策（経験知）を自ら取り入れ、自らの環境や知識（自分知・地域知）に即して融合し、自らにとって最も適した事前対策を検討・実行していく社会の構築である。本研究プロジェクトは4年目を迎えており、本セッションではこれまでに構想・開発してきた各種アプリケーションシステムと各地域で実践してきた手法の適用事例について紹介する。

キーワード: 災害リスク情報, 防災, 減災, 情報システム

Keywords: Disaster Risk Information, Disaster Preparation, Disaster Prevention, Disaster Reduction, Disaster Mitigation, Information System